

たいせつな時間は、写真の中で生きている。

オーラを感じさせたケネディ大統領との出会い



サウジアラビアのファイサル皇太子（のちの国王）との会談を終え、執務室から出てきたケネディ大統領。大柄ではつつつとした、輝くような笑顔の人だった。ホワイトハウスのスタッフはとてもフランクで、この前日は、大統領執務室までも自由に見せてくれたという（この写真の撮影は「世界の旅」のスタッフによる）。

「世界の旅」の取材でジョン・F・ケネディ大統領にお会いしたのは、一九六二年十月五日のことでした。写真はちょうどホワイトハウスの執務室から出てこられたところですが、あとから知ったことですが、当時はキューバ危機の真っただなかで、そのための会議で徹夜明けだった。にもかかわらず、とてもにこやかに応対してくださいました。若くて礼儀正しくてオープン、というのが大統領から受けた印象です。

ケネディさんが姿を見せた瞬間、一気に明るくなったとでもいうような感じです。わたしたちの取材が終わるとすぐ、庭に待たせてあったヘリコプターで飛び立つという激務ぶりでしたけど、ああ、このエネルギーで世界を引っ張っていくんだなあ、って思いましたね。四十六歳という若さで暗殺されたのは、この一年ちよつとあと。ほんとに惜しいかたをなくしたと思います。

兼高かおる



profile

● Kaoru Kanetaka
1928年、神戸市生まれ。ジャーナリスト。59年から海外紀行番組の草分け「兼高かおる世界の旅」（TBS系）を制作。90年に番組を終えるまで31年間、ケネディ米大統領やシュヴァイツァー博士、サルバドール・ダリなど多くの著名人を取材したほか、世界各地の素顔を紹介した。90年、菊池寛賞受賞。91年、紫綬褒章授章。著書多数。